

長い名

楠山正雄

青空文庫

ちよんきりのちよんさんのほんとうの名をだれも知りませんでした。何でも亡くなったこの子のおかあさんが、この子の運がいのように何かいい名前をつけようと、三日三晩考えぬいて、病気になつて、いよいよ目をつぶるといふときに、かすかな声で、

「ああ、やっと考えつきました。この子の名はちよん。」

といいかけたなり、もう口が利けなくなつてしまつたのです。

そこでみんなはしかたがないので、「ちよん」きりで、名前が切れて無くなつてしまつたというので、「ちよんきりのちよんさん」

とあだ名なを呼よぶようになりまし。そのあだ名ながほんとうの名前なまえになつて、いつまでたつても、その子はちよんきりのちよんさんでした。

しばらくたつて、ちよんきりのちよんさんのおとうさんが、二度めどのおかあさんこどもをもらいました。間まもなくこのおかあさんにも子供こどもが生まれて、ちよんきりのちよんさんにも弟おとうとが出来できました。するとある人こどもがおかあさんみじかに、子供こどもに短い名前なまえをつけると、その子の命いのちは短みじかいし、長い名前ながをつけるほど、その子の寿じゆ命めいは長ながいものだといつて聞きかせました。そこでおかあさんは、かわいい子こどもに、せいぜい長い名前ながをつけてやりたいと考かんがえて、とうとうつけもついたり、

「ちようにん、ちようにん、ちようじゆうろう、まんまる入にゆうど
 道、ひら入にゆうどう道、せいたか入にゆうどう道、へいがのこ、いつちよ
 うぎりの、ちようぎりの、ちようのちようのちようぎりの、あの
 山の、この山の、そのまた向むこうのあの山越こえて、この山越こえて、
 桜さくらは咲さいたか、まだ咲さかぬ、花はなより団子だんごでお茶上ちやあがれ、お茶ちやがす
 んだら三遍べんまわ回わつて煙草たばこに庄しょうすけ助すけ。」
 という、すてきもない長ながい名前なまえをつけました。

二

兄きょうだい弟だいはだんだん大きくなつて、よくけんかをしました。す

ると弟おとうとはにいさんにさんざん悪いわるいたずらをしては、逃にげて行いつて、遠とおくの方ほうでまだからかつていました。

「ちよんきな、ちよんきな、ちよんちよん、きなきな。」

こういわれると、ちよんさんはくやしがつて、負まけずに弟おとうとの名な前まえを呼よんで、からかい返かえしてやろうとしましたが、

「ちようにん、ちようにん、ちようじゆうろう、まんまる入にゆうど。」

道う、ひら入にゆうどう道どう、せいたか入にゆうどう道どう、へいがのこ、いつちよ

うぎりの、ちようぎりの。」

と早はや口くちにやっているうちに、舌したがもつれて、かんしやくばか

り起おこつてきました。その間まに弟おとうとの方ほうはどこかへ逃にげて行いつてしままいました。

ちよんさんのおとうさんはまた、ちよんさん、ちよんさんと、
 にいさんの方が名前なまえが呼びよいので、何かなににつけて、

「これをしろ、ちよんさん。あれをしろ、ちよんさん。」

と、ちよんさんばかりひどく使つかいました。いたずらをして、

「これ、ちよんさん、ここへ来こい。ごつん。」

とすぐやられますが、弟おとうとの方は、「まんまる 入道にゅうどう、ひら入に

道ゆうどう、せいたか 入道にゅうどう、へいがのこ、いっちようぎりの、ち

ようぎりの。」をやっているうちに、くたびれてしまつて、おと

うさんも小言こごとをいうのが、めんどろくさくなりました。

おかあさんは、「やはりあの子ながに長い名なをつけて、いいことを

した。」と思おもいました。

三

ある日ちよんさんは、お友達ともだちといっしよに裏うらで遊あそんでいました。するうち、どうかしたはずみで、ちよんさんは井戸いどに落おちました。

「ちよんさんや、ちよんさんや。ちよんさんやい。」
みんなは口々くちぐちにこう名前なまえを呼よんで、繩なわを下おろしたり、はしごをかけたりにして、やっとちよんさんを助たすけ出だしました。

おかあさんは、「やはり、短みじかい名前なまえの子は運うんが悪わるいというのは、ほんとうだ。」と思おもっていました。

それから二三日にちたつて後のち、子供こどもたちはまた裏うらで遊あそんでいました。ちよんさんの弟おとうとは、「ちよんさんの落おちたのは名前なまえが短みじかくつて、運うんが悪いわるからだ。おれなんかどんなことをしたつて落おちやしなない。」といばりかえつて、わざと井戸いど側がわにぶら下がさつたり、つるべを引ひつぱつたりしているうちに、はずみでぽかんと井戸いどの中ちゆうへ落おちてしまいました。大ぜいのお友ともだち達はびつくりして、ちよんさんのうちへ駆かけつけて、

「大へんです。今いま、ちようにん、ちようにん、ちようじゆうろう、まんまる入にゆうどう道どう、ひら入にゆうどう道どう、せいたか入にゆうどう道どう、へいがのこ、いっちようぎりの、ちようぎりの、ちようのちようのちようぎりの、あの山の、この山の、そのまた向むこうのあの山越こえて、

この山越こえて、桜さくらが咲さいて、お山のからすが団子だんごほしいとないた、
 ではない、花はなより団子だんごでお茶上ちやあがれ、お茶ちやがすんだら三遍べまわ回わつて
 煙草たばこに庄しょうすけ助すけさんが、井戸いどにはまりました。」

と知しらせました。

「それは大たいへんだ。」

とみんななで駆かけつけるうちに、あんまり手間てまがとれたので、長なが
 い名なの庄しょうすけ助すけさんは、とうとう水みずに溺おぼれて死しにました。

青空文庫情報

底本：「日本の諸国物語」講談社学術文庫、講談社

1983（昭和58）年4月10日第1刷発行

入力：鈴木厚司

校正：大久保ゆう

2003年8月2日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

長い名

楠山正雄

2020年 7月12日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>